

令和3年(2021年)6月1日発行

学業奨励奨学金、大川陽康奨学金

成績優秀者136名を認定

リーダーとして主導的な役割を期待



認定者(建築学部)と成田学長

2021年度学業奨励奨学金および大川陽康奨学金の認定証授与式が4月20日、多目的講義棟(5号館)において執り行われた。

学業奨励奨学金は新2~4学年の学業成績優秀者を対象とした給付型奨学金である。昨年度1年間の成績が特に優秀であったエクセレント・スチューデント(E.S.)に年額50万円、それに準ずるリマーカー・スチューデント(R.S.)に年額20万円が授業料減免の形で給付される。今年度の3学部合わせた学年あたりの認定者数はE.S.が12名、R.S.が25名となっている。

成田健一学長は告辞の中で「この奨学金は入試時の奨学金とは趣旨が異なる。入学後の学業成績によって認定者が決定する。これが皆さんの励みになると信じて、長年にわたり本学で拘って続けている制度である。勉学だけでなく日頃の行動も含めて精進し、来年以降も継続して認定されるよう努力を重ねてほしい。皆さんには、今回の認定をしっかりと自覚して周りの学生の手本となっていたほしい」と期待を込めた。

NIT-EMS2020 環境マネジメント活動報告

新たな方針・マニュアルでスタート



EMS推進協議会2020

昨年4月、NIT-EMSでは、誰でも分かりやすく環境マネジメント針からシリアルな方針へ、そして分かりやすい環境目的・目標へとマニュアルの改定を行った。また、新たに「SDGs活動補助金」を設け、部門の幅広い活動の支援を行う体制を整えた。さらに、部門のEMS事務作業の

軽減を図るため、年間活動計画書と実績・評価報告書を一体化し、PCでの管理を可能とした。内部環境監査については、学科単位から部門単位の監査へ完全移行し、監査員数を大幅に削減。また、外部環境監査体制を、従来の外部機関ではなく、本学の法人本部を中心とした「サステイナブルボード」が受け持つこととし、有益な監査が出来る体制の整備を行った。



エコロジープレス

こうした取り組みが功を奏し、自己宣言によるEMS活動の体制整備は前進したものの、今年はコロナ感染拡大防止による緊急事態宣言発令の影響を受け、次の3点に焦点を絞った活動となった。

- ① 学生環境活動への支援
② 4部門の重点活動維持
③ 法規制順守

2022年度 入試情報

2022年度入試の主な変更点は左記の通り。詳細は受験ガイド、各募集要項を参照。
◆データサイエンス学科の募集を開始
2022年4月に開設するデータサイエンス学科の募集を開始(編入学科の募集を除く全ての入試)。



2022大学案内

入学定員は120名。
◆入学定員の変更
各学科の入学定員を左記の通り変更。機械工学科170名、電気電子通信工学科150名、情報メディア工学科120名(応用化学科80名、ロボティクス学科100名)、建築学科250名は変更なし。

◆一般選抜入試の試験内容変更
一般選抜入試の「数学科」では、記述式問題を導入。さらに試験時間を60分から70分に変更(理科と英語は従来通り60分)。「理科」は「物理または化学から1科目を選択」に変更(生物を廃止)。

NIT Open Campus

3/27オープンキャンパス実施報告

WEBオープンキャンパスと大学見学会を同時開催

◆WEBオープンキャンパス
当日10時から、特設サイトにおいて学長挨拶、大学紹介動画が配信された。このほか、学科紹介動画、在学生・卒業生・教員インタビュー動画なども併せて掲載された。

◆大学見学会
各部1時間30分の3部制、1部あたりの各学部の定員を20名に制限して実施。参加者は感染症対策を徹底したうえで各学科の施設や工房を巡り、教員や学生スタッフから説明を受けた。



来場型オープンキャンパス実施日程

2021 6/5(土) 7/10(土) 8/21(土) 22(日) 9/11(土) 2022 3/26(土)

データサイエンス学科 開設へ

数理統計やプログラミングなどの基礎技術からビッグデータ解析に必要なAI、IoTなどの最先端技術まで、データサイエンスの知識・技術を幅広く学ぶ新学科を2022年4月に開設。4月中旬に文部科学省へ設置届出書を提出済。学科詳細は右のQRコードから。



◆出願時提出書類の一部名称変更
専門高校入試(S工業科)(A工業科)(B工業科)、駒場高校からの入学者選抜(工業科)で、課題研究等について記載する「活動報告書」を「課題研究レポート」に名称変更。
◆新型コロナウイルス対策
昨年度に引き続き、入試当日の検温、マスクの着用、手指のアルコール消毒等の感染拡大防止策への協力を求める。
◆大学案内などの資料
「2022大学案内」など、新しい冊子をご希望の方は入試室(0120-250-267)まで。

PDCAからAARサイクルへ

技術経営研究科・教授 三宅 将之

長期の視点で社会とテクノロジーを展望したいという思いを持つ専門職大学院の有志が集い、2018年12月にスタートした「2030年の社会・テクノロジー研究会」は、関係者のご賛同とご協力を得て、参加者の輪が拡大し、今日まで月次開催を継続している。

毎回、報告者が実体験に基づいた話の後、事業会社の経営幹部、中小企業診断士、金融関係者、大学教員など様々な経験者有している参加者との「対話」を重視した意見交換を実施している。

長期視点で、「価値創造とリスク」、「テクノロジーと人」など多面的に本質に迫り、また、個人と企業、そして社会との関係性の変化などについて活発な議論を行っている。新しいテクノロジー活用に対応しい会社組織の形態と運営、従業員の意識改革が論点になることが多い。

これまでの議論を通じて、共通する重要なテーマの一つが、新しいテクノロジーを活用してイノベーションを推進するには、多くの企業が中長期

変革に迫られ、計画を立てるための前提が次々と変わるためである。

前提が変われば計画も立て直さなければならぬ。いつまでも計画の見直し検討に時間を費やすはめになる。結果的に重要なビジネスチャンスを逃し、避けるべきリスクを避けられない。これが日本企業の陥っている苦境の原因ではないかと見られる。

VUCAの時代に必要なが経営手法として「AARサイクル」が注目されている。AARサイクルとは、見直し・行動・振り返りのサイクルで、ある程度の見通しが立ったらすぐにやってみる。試しながらうまくいけばもっとやろうと、うまくいかなければ、次は少しやり方を変えてやってみようという試行錯誤のサイクル経営である。

今般のコロナ禍という未曾有の危機に直面した我々がこの危機を乗り越えるためにも、中小企業を含めた業界全体や業界の壁を越えた取り組みが必要となる。また、有効にテクノロジーを活用するために、既存の思考法や組織・人材、業務プロセスを見つめ直し、改めるべき点は果敢に変革に取り組み、実践することが求められている。

様々な業界で活躍される参加者が、この「研究会」という場を通じて相互の対話を重ねることにより気づきを得て、AARサイクルによる試行錯誤の実践者となることを期待している。

2021年度 科学研究費助成事業内定

4月1日に日本学術振興会より科学研究費助成事業の交付内定が通知され、本学は新たに12件の研究課題が新規採択を受けた。本年度は継続課題34件を含め46件の課題が科学研究費の助成を受ける。

本学教員の研究課題は、ものづくりの基盤を支える技術から今後の技術革新に繋がる可能性を秘めたもの、人文社会系統や学習そのものに着目した研究など多岐にわたっている。

2021年度 科学研究費助成事業 交付決定者・内定者一覧

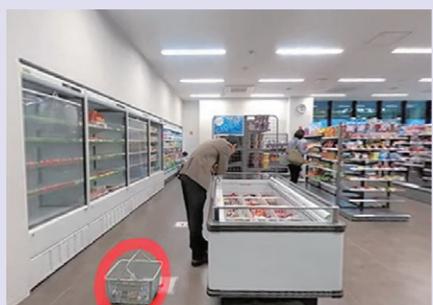
研究種目	学科	職	研究代表者氏名	継続/新規	採択年度	研究課題
基盤研究(B)	応用化学科	准教授	小池 隆司	新規	2021	小さな芳香環を基盤とする有機光レドックス触媒系の開拓
基盤研究(C)	共通教育学群	准教授	河住有希子	新規	2021	グローバル化時代における視覚特別支援教育と日本語教育の有機的連携に向けた基盤構築
基盤研究(C)	共通教育学群	准教授	加藤 利康	新規	2021	タンジブル教材を用いたプログラミング授業のためのAI分析による支援システムの展開
基盤研究(C)	機械工学科	教授	張 暁友	新規	2021	体内埋込み人工腎臓用1自由度制御型磁気浮上遠心ポンプの研究
基盤研究(C)	電気電子通信工学科	教授	竹村 暢康	新規	2021	全二重無線通信の空間ダイバーシティと固有ビームフォーミングによる伝送路容量の向上
基盤研究(C)	機械工学科	准教授	加藤 史仁	新規	2021	面内塑性変形パラジウム膜の水素吸蔵反応機構の解明と水素ガスセンサーへの応用
基盤研究(C)	電気電子通信工学科	助教	大田 健紘	新規	2021	複数センサの融合による発声動作からの発話内容の推定と発声補助デバイスへの応用
基盤研究(C)	情報メディア工学科	准教授	橋浦 弘明	新規	2021	AI技術を活用したセルフレビュー可能なプログラミング学習支援環境の研究
若手研究	共通教育学群	講師	関根 路代	新規	2021	ことばで共同体を紡ぐ——ポエトリー・リーディングの社会的意義に関する研究
若手研究	共通教育学群	准教授	高岡 邦行	新規	2021	ミャンマー人留学生の円滑な数学学習を目指したオンデマンド型eラーニング教材の開発
若手研究	共通教育学群	講師	山口 剛	新規	2021	学習が成立するまでの過程におけるメタ認知の役割の解明
研究成果公開促進費(学術図書)	共通教育学群	教授	工藤 浩	新規	2021	先代旧事本紀注釈
基盤研究(B)	情報メディア工学科	教授	荒川 俊也	継続(転入)	2019	津波避難時の危険予知意識向上と避難手法の選択に資するKYTシート・アプリの開発
基盤研究(C)	共通教育学群	准教授	梅谷 篤史	継続	2020	ハイパー核の生成・構造・崩壊の拡張殻模型による高精度分析のsd殻領域への展開
基盤研究(C)	機械工学科	教授	村田 泰彦	継続	2020	炭素繊維強化熱可塑性樹脂シート加熱・冷却ハイブリッド射出成形現象の実験解析
基盤研究(C)	電気電子通信工学科	教授	吉田 清	継続	2020	直流高電圧のアーク放電遮断に効果的な封入気体とアーク放電抑制機構の解明
基盤研究(C)	電気電子通信工学科	教授	吉野 秀明	継続	2020	IoTシステムの過負荷を抑制するLPWAネットワーク輻輳制御に関する研究
基盤研究(C)	電気電子通信工学科	准教授	木許 雅則	継続	2020	屋内でのシームレスな消音を実現する超指向性スピーカを用いた多チャンネルANCの開発
基盤研究(C)	建築学科	准教授	伊藤 大輔	継続	2020	実用化に向けた昼光設計支援のための性能評価マトリクス指標の確立
基盤研究(C)	情報メディア工学科	准教授	神林 靖	継続	2020	移動エージェントを用いた構造物検査のための飛行群ロボット制御の研究
基盤研究(C)	応用化学科	教授	佐野 健一	継続	2020	高い構造異方性を持つ細胞透過性人工タンパク質の細胞透過機構の解明
若手研究	共通教育学群	講師	南谷 泰良	継続	2020	ジェームズ・ジョイスと「苦痛の鞭を打つ者」——文学における痛みへの文化的考察
基盤研究(B)	応用化学科	教授	白木 将	継続	2019	全固体電池における固固界面イオニクス：構造物性相関の解明
基盤研究(C)	共通教育学群	教授	本村 猛能	継続	2019	国際比較を踏まえた我が国の情報教育カリキュラム体系化と教材提案及び実践研究
基盤研究(C)	情報メディア工学科	教授	桑野 文洋	継続	2019	社会実装型PBLのリスク分析手法に関する研究
基盤研究(C)	機械工学科	教授	神 雅彦	継続	2019	次世代モータ用電磁材料の超音波振動せん断技術に関する研究
基盤研究(C)	ロボティクス学科	教授	樋口 勝	継続	2019	中小企業におけるスマートファクトリー実現のためのワイヤ駆動デルタロボットの開発
基盤研究(C)	電気電子通信工学科	准教授	木村 貴幸	継続	2019	大規模ライドシェアシステムに対する非線形力学系理論を用いた経路制御手法
基盤研究(C)	建築学科	教授	吉野 一	継続	2019	可搬型局所換気装置による介護空間の空気環境改善に関する研究
基盤研究(C)	情報メディア工学科	准教授	松浦 隆文	継続	2019	移動シェア問題に対するニューラルネットワークを用いたオンラインアルゴリズムの開発
基盤研究(C)	ロボティクス学科	教授	鈴木 宏典	継続	2019	多重追突事故防止型自動運転技術の開発：先行車の減速意図予測に基づく車群安全の実現
基盤研究(C)	建築学科	准教授	樋口 佳樹	継続	2019	コンポストリブレ導入による自宅と地域における災害発生直後の排泄環境整備
基盤研究(C)	応用化学科	教授	新倉 謙一	継続	2019	タンニン酸-PEG複合体の形状・サイズ制御法の確立とワクチンへの応用
基盤研究(C)	応用化学科	教授	大澤 正久	継続	2019	単分子で白色発光を示すd10全金属二核ハイブリッド材料の開発
基盤研究(C)	情報メディア工学科	教授	勝間田 仁	継続	2019	複数のスマートデバイスを活用した個人適応型学習環境の研究開発
若手研究	共通教育学群	准教授	高岡 邦行	継続	2019	日本とミャンマーにおける数学教育の比較研究-留学生に対する教科指導を目的に-
若手研究	建築学科	准教授	箕輪 健一	継続	2019	形状記憶合金による大空間ラテックス屋根の地震応答制御および残留変形対策
若手研究	共通教育学群	講師	齋藤早紀子	継続	2019	日常歩行の審美性における運動学的機序
基盤研究(C)	共通教育学群	教授	工藤 浩	継続	2018	「先代旧事本紀」の注釈的研究
基盤研究(C)	情報メディア工学科	教授	辻村 泰寛	継続	2018	大学の工学教育における地域連携型社会実装PBLのカリキュラムデザイン
基盤研究(C)	共通教育学群	准教授	狩野 みか	継続	2018	改良型小型圧力セルによる擬一次元有機薄膜の新規物性解明
基盤研究(C)	電気電子通信工学科	教授	高瀬 浩史	継続	2018	零サイドロープ特性を持つハリス圧縮符号の探求と応用
基盤研究(C)	電気電子通信工学科	教授	宇賀神 守	継続	2018	ソフトウェア無線に適した高感度で帯域可変な3相信号処理無線受信LSI設計技術
基盤研究(C)	ロボティクス学科	准教授	秋元 俊成	継続	2018	動脈血酸素飽和度の非接触測定の研究
若手研究	共通教育学群	講師	内藤 貴仁	継続	2018	自由ループ空間の有理係数ホモロジーの研究
挑戦的研究(萌芽)	電気電子通信工学科	准教授	清水 博幸	継続	2018	雷撃の衝撃波による椎骨発生メカニズム解明と栽培促進技術の確立

車いす利用者の視点から見たVRムービー 自治体からの依頼で、学生が実演・制作

情報メディア工学科の5名の学生が大山麻里教授と松田洋准教授のもと、東京都北区からの依頼で車いす利用者の視点を映像化するため研究・制作を進めてきた「こころのバリアフリーVR映像」が完成した。

今回の映像は店内での体験を再現。小

型の360度ムービーカメラを車いす利用者の視点位置に取付け、学生や北区の職員が学生制作のシナリオに沿って演じた。1月には悪い例・良い例の対比ができる2つの映像コンテンツも配信され、北区では視聴会も開催。アンケートでは高評価を得ている。



悪い対応例：カゴを置いたままで車いすが通れない



良い対応例：邪魔なカゴに気付いて進路を空ける

NITプロダクトデザインコンテスト2021

3D-CAD以外の作品も応募可能に

より広く作品を募集するため、これまで使用前だった3D-CADを使わない作品でも応募できるようにした。こんなものがあったら面白い、楽しいなど、自由な発想に基づく魅力的なプロダクトを提案してほしい。詳しい募集内容は、大学ホームページにて公開予定。



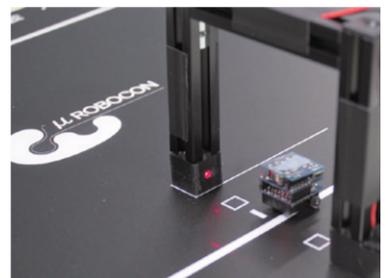
2019年の入賞作品

第15回 マイクロロボット高校生大会

今年は競技会を本学で実施(予定)

第15回大会は12月25日に本学にて開催を予定。会場に集まったの緊張感と参加生徒同士の姿を見る経験は他では得ることができない。状況により本学での開催が難しくなる可能性もあるが、大会が中止になることが無いように遠隔での開催に切り替えて対応したい。

<http://www.nit.ac.jp/ise/mrc.html>



昨年はオンラインで実施

第35回 建築設計競技

テーマは「3軒のお一人さまハウス」

建築を学ぶ高校生を対象とした建築設計競技。今年は、想定する敷地に3軒(3人)の戸建ての「3軒のお一人さまハウス」を募集する。審査は建築家の石田敏明氏、本学建築学部の小川次郎教授、足立真教授が担当する。提出期限は8月31日。審査結果は9月中旬、下記ウェブサイトにて発表される。

<http://nit-kenchiku.jp/activities/>



入賞作品はLCセンターで展示(2019年)

電気設備学会 学生研究発表会優秀賞

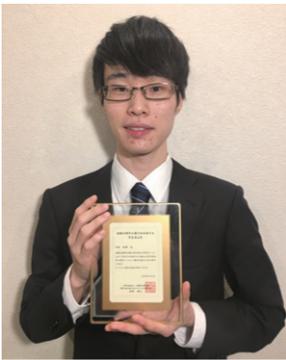


電子情報メディア工学専攻博士前期課程(上野研究室)の大学院生が12月26日に発表した、回転体に外部から電力・電気信号を伝達する回転コネクタ「スリッピング」の研究が電気設備学会より表彰された。

2年の高田友輔さんは論文「スリッピングシステムにおけるリング摺動面粗度が与えるブラシ摩耗への影響」で優秀賞を受賞。モーターや発電機の電流伝達に用いるスリッピングシステムについて、材料の物質的性質がブラシ摩耗に及ぼす影響を定量的に求めた。

1年の川島優樹さんは論文「銀黒鉛質ブラシの銀含有率変化における銅スリッピングの摺動通電特性」で準優秀賞を受賞。銅スリッピングと銀黒鉛質ブラシの基礎特性を摺動通電実験により明らかにした。

ハンドジェスチャの研究 情報処理学会学生奨励賞



3月18日、20日にかけてオンラインで開催された情報処理学会主催「第83回全国大会」において、機械システム工学専攻博士前期課程2年(田村研究室)の伊東和輝さんが学生奨励賞を受賞した。受賞論文名は「不特定多数の利用者を対象としたSEMGによる多クラスハンドジェスチャ識別手法」。

腕の筋電位情報に対し、深層学習を活用することでハンドジェスチャの識別精度向上に成功。データ拡張手法により不特定多数の利用者にも適応することを可能とした。

このシステムを活用することでハンドジェスチャをVRやARのコントローラー等として導入する際の負担軽減が期待でき、将来的には電動義手義足の制御への応用も考えられる。

太陽光パネルの体験型教材 教材コンテストで優秀賞

電気電子工学科(竹本成や)成果活用を通して電気工学の魅力や学ぶ楽しさを習得を目的としている。今回の募集テーマは「電気・電力と地球環境」の優秀賞を受賞した。作品は芝浦工大学生との共作である。

本コンテストは、高校生や大学生らがテーマに沿った中学生向けの教材企画を考え、その企画作成した。受賞に際し種田さんは「この教材を通して多くの中学生が電気への興味を持ってもらえるように」とコメントしている。



電気電子工学科(竹本成や)成果活用を通して電気工学の魅力や学ぶ楽しさを習得を目的としている。今回の募集テーマは「電気・電力と地球環境」の優秀賞を受賞した。作品は芝浦工大学生との共作である。

本コンテストは、高校生や大学生らがテーマに沿った中学生向けの教材企画を考え、その企画作成した。受賞に際し種田さんは「この教材を通して多くの中学生が電気への興味を持ってもらえるように」とコメントしている。

音声認識・検査の研究 品質工学会学生賞

機械システム工学専攻博士前期課程2年(二ノ宮研究室)の舟山善貴さんが3月24日、品質工学会の学生賞を受賞した。受賞論文名は「MT法マハラノビス・タグチ法による音声および打音の判定技術に関する研究」。

音に関する良否判定は生産現場で多用されている。舟山さんは「AIの時代に簡便な方法で音の判定に必要な新しい『ものさし』を作る研究に一所懸命取り組んだ。研究が評価されてうれしい」とコメントしている。



機械システム工学専攻博士前期課程2年(二ノ宮研究室)の舟山善貴さんが3月24日、品質工学会の学生賞を受賞した。受賞論文名は「MT法マハラノビス・タグチ法による音声および打音の判定技術に関する研究」。

音に関する良否判定は生産現場で多用されている。舟山さんは「AIの時代に簡便な方法で音の判定に必要な新しい『ものさし』を作る研究に一所懸命取り組んだ。研究が評価されてうれしい」とコメントしている。

20年に亘る共同研究成果で 岩木賞(優秀賞)



2月26日、第13回岩木(岩木賞)の贈呈式が理工学研究所で行われ、機械工学科の二ノ宮進一教授らの研究が優秀賞を受賞した。受賞業績名は「導電性ダイヤモンドを利用した精密加工工具の開発」。

優秀賞は開発技術が日本国内において高い水準にあり、新規独創性に優れ、開発技術が実用化され社会的貢献が認められる研究に与えられる。

本研究では世界で初めて導電性ダイヤモンドを電極素材として活用する方法を開発。精密放電加工を行う上で有効な電極材と評価された。富山県立大の岩井井教授との20年に亘る共同研究成果である。二ノ宮教授は「今後も社会に役に立つ技術開発に励みたい」と抱負を述べている。

コロナ禍の1年 想いを英文エッセーで表現



と企画された英語学修イベントである。昨年に残った出来事や思いをテーマに、学生たちは制約のある生活の中からポジティブな面を見出し、英文で表現した。応募13作品の中から選考が行われ、左記の通り受賞者が決定。3月20日に受賞セレモニーが行われた。

最優秀賞は再博文さん(建築学科4年)、優秀賞は松丸由宇馬さん(ロボティクス学科1年)、優良賞は生田和己さん(情報メディア工学科2年)が受賞した。

2月3日から5日にかけて、英語教育センター主催の「2020ベストメモリーコンテスト」が開催された。コロナ禍、楽しみながら英語を学ぶ機会を学生に提供しよう

新任教員から学生の皆さんへメッセージ

情報メディア工学科
呉本 堯 教授



出身は中国安徽省で、来日して30年目を迎えます。専門は人工知能(AI)分野です。これまで28年間、山口大学にてAIの核心的技術であるニューラルネットワークの勉強・研究をしてまいりました。近年、第3次AIブームが盛り上がり、様々な研究・応用成果が話題を呼んでいます。本学でもこの最先端技術の教育と研究を推進しましょう。

情報メディア工学科
荒川 俊也 教授



前任校は愛知工科大学で、その前は自動車メーカーのスパルに勤務していました。自動車人間工学と統計科学や機械学習の応用が専門ですが、面白そうなことは何でもやります。学生さんにはウウン喰って考え、苦しんでもらいながらも楽しく・元気よく、勉強や研究を進めて欲しいと思います。社会に貢献できるエンジニアを目指し、一緒に頑張りましょう。

学修支援センター
大出 明 教授



本学では学習基盤科目「学修と実工学」と学修支援を担当しています。3月まで工業系高等学校で勤務していました。

私の専門は工業系デザインなので、ものづくりに通じて学ぶことはとても意義あることと実感しています。どうしたらだろう、どうしたらできるだろうという視点で様々なことに疑問を抱き、課題を解決し導けるエンジニアを目指していきましょう。

産学連携起業教育センター
橋本 秀一 教授



私の専門は社会学・精神分析学・文学で、本学では主に現代社会系の授業を担当して参ります。コロナ危機だけではなく、その前から、日本を含む世界に激動の時代が到来しており、私たちはその真只中にいます。私は皆さんが確かな知見と視野を備えて、力強くこの激変する社会に立ち向かっていくことができよう、尽力して参りたいと思っています。

産学連携起業教育センター
筒井 研多 教授



産学連携起業教育センターは、その名の通り教員の研究と学外をマッチングさせる「産学連携」と、学生の皆さんにビジネスプランの作り方を教える「起業教育」の2つの役割、顔を持ちます。新しいアイデアを発想し熟成させ、それを伝える事は、AIの時代でも人間に要求される貴重なスキルです。皆さんの将来に役立つ経験を一緒に楽しみましょう。

応用化学科
小池 隆司 准教授



2020年は人類史に深く刻まれる一年でした。新型コロナウイルスとの闘いは今も続いています。この状況下で新任教員として未来ある大学生の教育と研究活動を行うことに身が引き締まる思いです。研究者や技術者は、現状に満足せずより良いものを開発する気持ちが大切だと思います。学生とともに、より良い未来を切り拓いていきたいです。

情報メディア工学科
伊藤 暢彦 准教授



前勤務先はNECCで自動車の遠隔制御のための通信システムに関する研究に従事していました。専門はモノのインターネット(IoT)を含む通信ネットワークです。研究室では、情報通信学とデータサイエンスを軸に人々の生活の質を高め、継続的な経済発展に寄与する社会システムのスマート化に向けた研究を行います。社会に役立つサイバースを一緒に創造しましょう。

情報メディア工学科
高津 洋貴 准教授



素晴らしい研究・教育環境を与えていただきありがとうございます。専門は、人間情報工学です。現在は、医療、福祉、介護現場の様々な問題について、情報技術を活用することで改善しようと試みています。情報工学の知識のみでの改善は難しく、医療、福祉、介護現場の方々と一緒になって取り組んでいます。様々な専門の方が集まることで、新しい発見があります。

町り 宮代 230号

新たな福祉の拠点 すてっぷ宮代

西原地区内にある旧ふれ愛センターを新たな福祉の交流拠点とするため、5月にすてっぷ宮代がリニューアルオープンしました。

宮代町社会福祉協議会、福祉作業所ひまわり

すてっぷ宮代のある西原自然の森は、郷土資料館が併設され、宮代町の資料の展示・企画展などが行われています。ぜひ、お越しください!

すてっぷ宮代 宮代町西原278

富田美憂

新入生歓迎 ONLINE TALKSHOW

6/5 18:00 配信開始

主催:中央執行委員会